

令和元年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金（慢性の痛み政策研究事業）
分担研究報告書

慢性疼痛診療システムの均てん化と
痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究
慢性疼痛の集学的治療に関する文献レビュー

研究分担者 松平 浩 東京大学医学部附属病院 特任教授

研究要旨：

近年の痛みに関する研究においては、基礎研究分野で新しい痛みのメカニズム解明などの大きな進展があったが、実臨床に結びついていたエビデンスの構築に関しては発展の途上にある。

慢性疼痛により巨額の国富が失われている現状において効果的な取り組みが求められているものの、エビデンスが不足しており、一般医療機関に浸透するまで至っていない。2018年に「慢性疼痛治療ガイドライン」が出版され、一定の指針が示されたが、具体的な提言に関して改良の余地があり、慢性疼痛に関する診療システムを均てん化し、医療の質を向上するためにはさらなる検討が必要である。

慢性疼痛治療において、異なる専門領域の医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどのチームでの症例検討と連携（リエゾンカンファレンス）により、治療方針・計画を立案する集学的治療は、注目を集める領域である。

本研究は「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」におけるサブテーマの一つとして、「慢性疼痛の集学的治療」を実臨床に効果的に導入することを目的に文献レビューを行った。本年度は文献レビューの途中経過に関して報告を行う。

A . 目的

近年の痛みに関する研究においては、基礎研究分野で新しい痛みのメカニズム解明などの大きな進展があったが、実臨床に結びついていたエビデンスの構築に関しては発展の途上にある。慢性疼痛により巨額の国富が失われている現状において効果的な取り組みが求められているものの、エビデンスが不足しており、一般医療機関に浸透するまで至っていない。

2018年に「慢性疼痛治療ガイドライン」が出

版され、一定の指針が示されたが、具体的な提言に関して改良の余地があり、慢性疼痛に関する診療システムを均てん化し、医療の質を向上するためにはさらなる検討が必要である。慢性疼痛治療において、異なる専門領域の医師、看護師、臨床心理士、理学療法士、作業療法士、ソーシャルワーカーなどのチームでの症例検討と連携（リエゾンカンファレンス）により、治療方針・計画を立案する集学的治療は、注目を集める領域である。

本研究は「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛みセンター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」におけるサブテーマの一つとして、「慢性疼痛の集学的治療」を実臨床に効率的に導入することを目的に文献レビューを行った。本年度は文献レビューの途中経過に関して報告を行う。

B . 方法

文献の網羅的な検索において、Clinical QuestionとKeywordの設定は重要な項目であり、専門家の協議により決定を行った。Clinical Questionに基づいて設定したKeywordを用いて文献収集を行い、エビデンス構築のために構造化抄録案を作成した。Clinical Questionは以下の二つである。

- 1) 慢性疼痛における集学的治療は有用か？
- 2) 慢性疼痛に対する集学的治療の費用対効果は？

C . 結果

- 1) 慢性疼痛における集学的治療は有用か？に関して

CQの構成要素

P (Patients, Problem, Population) 性別：指定なし、年齢：18歳以上、疾患・病態：慢性疼痛を有する患者

O (Outcomes) のリスト

	Outcomeの内容	益か害か	重要度の点数 (1 - 10点)
01	短期・1年後, 2年後のQOL指標		

	益	9点	
02	短期・1年後, 2年後のdisability		
	益	9点	
03	短期, 1年後, 2年後の鎮痛効果		
	益	8点	
04	治療期間	益	8点
05	職場復帰	益	8点
06	鎮痛薬使用量	益	7点
07	疼痛の再発	害	7点
08	重篤な合併症	害	6点

Keyword検索式

Search("chronic pain"[MH] OR "pain, intractable"[MH] OR "abdominal pain"[MH] OR "visceral pain"[MH] OR "irritable bowel syndrome"[MH] OR "back pain"[MH] OR "chest pain"[MH] OR "fibromyalgia"[MH] OR "musculoskeletal pain"[MH] OR "complex regional pain syndromes"[MH] OR "headache"[MH] OR "headache disorders"[MH] OR "facial pain"[MH] OR "facial neuralgia"[MH] OR "temporomandibular joint disorders"[MH] OR "burning mouth syndrome"[MH] OR "glossalgia"[MH] OR "eye pain"[MH] OR "neck pain"[MH] OR "shoulder pain"[MH] OR "pelvic pain"[MH] OR "chronic pain"[TIAB] OR "long-lasting pain"[TIAB] OR "long-term pain"[TIAB] OR "persistent pain"[TIAB] OR "intractable pain"[TIAB] OR "musculoskeletal pain"[TIAB] OR "musculoskeletal disorder*"[TIAB] OR

"chronic muscular pain"[TIAB] OR
"shoulder pain"[TIAB] OR "neck
pain"[TIAB] OR whiplash[TIAB] OR "back
pain" [TIAB] OR "widespread pain"[TIAB]
OR fibromyalgia[TIAB] OR FMA[TIAB] OR
"myofascial pain syndrome"[TIAB] OR
myalgia[TIAB] OR "idiopathic pain"[TIAB]
OR "diffuse pain"[TIAB] OR "non-specific
pain"[TIAB] OR "non-cancer pain"[TIAB] OR
"non-malignant pain"[TIAB] OR "benign
pain"[TIAB] OR arthriti*[TIAB] OR
osteoarthritis[TIAB] OR "neuralgia"[TIAB]
OR "CRPS"[TIAB] OR "complex regional
pain"[TIAB] OR "irritable bowel"[TIAB] OR
"IBS"[TIAB] OR "temporomandibular
disorder"[TIAB] OR neuropathic[TIAB] OR
"spinal cord injury"[TIAB] OR "spinal
pain"[TIAB] OR dorsalgia[TIAB] OR
sciatica[TIAB] OR coccyx[TIAB] OR
coccydynia[TIAB] OR spondylosis[TIAB] OR
lumbago[TIAB]) AND (("Systematic
Review"[PT] OR "Meta-Analysis"[PT] OR
"Randomized Controlled Trial"[PT]) OR
("Systematic Review*" [TIAB] OR "Meta-
Analysis"[TIAB] OR "Randomized Controlled
Trial"[TIAB] OR "controlled clinical
trial"[TIAB])) AND
(multidisciplinary[TIAB] OR
multiprofessional[TIAB] OR
multimodal[TIAB] OR
interprofessional[TIAB] OR inter-
professional[TIAB] OR

interdisciplinary[TIAB] OR inter-
disciplinary[TIAB] OR biopsychosocial[TI]
OR "pain program*" [TI] OR "pain
school"[TI] OR "back school"[TI]) AND
(English[la] OR Japanese[la]) NOT
cancer[TI] NOT neoplasm[TI] NOT
("animals"[MH] NOT "humans"[MH]) NOT
child*[TI] NOT adolescent*[TI]

Filters: Publication date from 2005/01/01

2) 慢性疼痛に対する集学的治療の費用対効果
は？

CQの構成要素

P (Patients, Problem, Population) 性別：
指定なし、年齢：18歳以上、疾患・病態：慢
性疼痛を有する患者

O (Outcomes) のリスト

費用対効果

Keyword検索式

1)と同様

この検索式にて 110 文献が Hit、抄録と本文の
確認により以下 24PMID の文献の検討を行った。

31473206, 30560041, 30056195, 29526561,
29147758, 27445618, 27391036, 26735864,
26631759,25967998,25180773,24867906,24658
485, 23595142, 23168359, 22889312,
22476607, 21229367, 20364057, 20364056,
19675740, 17644548, 17512079, 20640863

2008 年に報告された集学的治療に関するシ
ステマティックレビューによると、慢性疼痛

(慢性腰痛や線維筋痛症)に対する集学的治療は、通常の治療群や待機群と比較すると、有効であることに強いエビデンスがある。また、集学的治療は、患者の話を傾聴しながら行う理学療法や患者教育のような非集学的治療と比較すると、有効であることに中等度のエビデンスがある。入院型プログラムと外来型プログラムでは、入院型プログラムの方が有効であることに中等度のエビデンスがある。この報告での集学的治療は、認知行動療法(CBT)が主な治療法であり、期間は外来型で4~15週、入院型で3~8週であった。医師が治療チームに含まれているのは一部であり、その役目は薬物の管理・減量と慢性疼痛形成の病態生理の情報提供であった。治療内容ごとの検討では、治療内容による差異は明らかでなかった。慢性疼痛に対して治療法を比較したメタアナリシスの報告では、理学療法、行動療法・心理療法、それらの併用の3群間に、痛みと機能障害に関して明らかな差が認められなかった。しかし、これら3群の治療内容は厳密に分けることは困難である。慢性疼痛で休職している人たちに対する集学的治療のメタアナリシスでは、集学的治療は職場復帰に明らかに有用であった。生物心理社会的リハビリテーションによる集中的集学的治療のメタアナリシスでは、慢性腰痛による身体機能に有効であることに強いエビデンスがある。痛みに関しては中等度のエビデンスであった。頸部痛を伴った頭痛に対する治療に関するシステムティックレビューは、運動療法が必須であること、集学的治療が有用であることを示している。集学的治療にかかるコストに関しては、各国の保険制度や集学的治療の内容によって異なるため、詳細な検討が必要である。

D . 考察

「慢性疼痛診療システムの均てん化と痛み

センター診療データベースの活用による医療向上を目指す研究」におけるサブテーマの一つとして、「慢性疼痛の集学的治療」を実臨床に効率的に導入することを目的に文献レビューを行い、上述の結果を得た(研究は文献レビューであるため直接的な関連はないが、慢性疼痛に関連した論文発表を本研究の成果として提示する)。

E . 結論

本年度は文献レビューの途中経過に関して報告を行ったが、次年度は更なる検討を重ね、リコメンドを含めた提言を作成する予定である。

F . 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載(当該分担研究においては文献レビューのみのためなし)

G . 研究発表

1. 論文発表

- 1) Yoshimoto T, Oka H, Ishikawa S, Kokaze A, Muranaga S, Matsudaira K. Factors associated with disabling low back pain among nursing personnel at a medical centre in Japan: a comparative cross-sectional survey. *BMJ Open* 9(9):e03229, 2019.
- 2) Yoshimoto T, Oka H, Fujii T, Kawamata K, Kokaze A, Koyama Y, Matsudaira K. Survey on chronic disabling low back pain among care workers at nursing care

facilities: a multicenter
collaborative cross-sectional
study. J Pain Res 12:1025-1032,
2019.

2.学会発表

なし

H .知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1 . 特許取得

なし

2 . 実用新案登録

なし

3 . その他

なし